

**理紀之助ゆかり「草木谷」で栽培 私たちのもち米どうぞ**

**大豊小児童、潟上市に贈る**



潟上市の大豊小学校5年生が、市ゆかりの農業指導者・石川理紀之助(1845～1915年)が貧農生活を実践した「草木谷」と呼ばれる場所で育てたもち米約40キロを市に贈った。もち米は市内の福祉施設などに配られる。

大豊小は地元のNPO法人草木谷を守る会(石川紀行代表)の協力を受け、田植えから収穫、脱穀までを手作業で体験する「たんぼの楽校」に15年間取り組んでいる。今年5月に田植え、7月に草取り、10月に稲刈りをした。児童は昔ながらの農作業を通し、環境保全の大切さも学んだという。

児童代表4人が15日に市役所を訪れた。鈴木雄大市長に、スライドを使って活動の様子や石川理紀之助の功績を説明した後、丹精込めて作ったもち米を手渡した。

高橋明咲さん(10)は、「脱穀が一番大変だった。大切に育てたので食べた人に『おいしい』と思ってもらえたらうれしい」と話した。(菊地隆秀)

(秋田魁新聞 令和4年12月22日(木)より一部抜粋)